

**グラスルーツグローバルイゼーション**  
**-草の根・地域からの地球一体化推進-**

広田秀樹ゼミナール

09 E 062 吉原義和  
09 E 006 伊丹彰  
09 E 008 内山慎也  
09 E 031 佐藤友靖  
09 E 015 大屋翔馬  
09 E 403 松沢知生  
09 E 018 小川原玄  
08E013 鹿又幸太  
09E063 李又輝  
10E013 王偉志  
10E050 松川貴之



## 目 次

はじめに

### 1. Study

- 1. 1 グローバリゼーション全般に関するディスカッション
- 1. 2 グローバリゼーションの発展過程に関するディスカッション
- 1. 3 「グラスルーツグローバリゼーション」に関するディスカッション

### 2. Invite

- 2. 1 アメリカ人 IT コンサルタント デビッド＝ブズロー氏を招待
- 2. 2 ネパール人留学生 ナミタ氏を招待
- 2. 3 長岡市国際交流センター長 羽賀友信氏を招待
- 2. 4 ロシア人留学生 エリーナ氏を招待

### 3. Visit

- 3. 1 「世界の仲間と運動会」への参加
- 3. 2 「長岡まつり前夜祭大民謡流し」への参加
- 3. 3 「お正月餅つき大会」への参加

### 4. Donate

おわりに

謝辞

## グラスルーツグローバリゼーション

### -草の根・地域からの地球一体化推進-

#### はじめに

私たちのゼミでは伝統的に、「グローバル化」・「国際交流」をテーマに活動を進めてきた。近年の時代の最大の特徴は、「グローバリゼーション(グローバル化・地球一体化)」の急速な進展にあるという時代認識がゼミ生の思考の底流にはあった。

実際、政府・企業・教育機関・個人、あらゆるレベルで、グローバリゼーションの影響は絶大である。例えば、グローバリゼーションの進展は、世界 GDP の拡大、世界貿易の拡大、世界的な直接投資の拡大等、マクロ経済的な点では、世界経済を大いに発展させている。世界 GDP だけとってみても、グローバル化が本格的に開始された 1989 年頃から、約 20 年を経過して、世界 GDP は実に、3 倍に拡大している。世界貿易は、5 倍も拡大している。世界経済全体の拡大速度は、どんどんスピードアップし、さらに成長・発展すると考えられている。

私達の日常生活を見ても、グローバル化の影響は絶大である。例えば、現在私達は、グローバル化が進むおかげで、街のあらゆるお店で、世界中の商品を買うことができる。

100 円ショップに象徴的なように、世界中から商品が流入して競争が活発になったおかげで、商品の値段は全般的に安くなった。毎日、世界中の情報を、衛星テレビ・インターネットを通じて、知ることができる。

世界各地の人が、地域にも観光・留学・仕事などで訪れ、地域にあっても、外国の人と接することが日常的に多くなり、異文化にふれる機会が増え、生活に刺激を与えてくれる。最近では、外国人の方が、お店を出したり、会社をつくったりするケースも増えている。

海外渡航のチャンスが拡大したことこそ、グローバリゼーションの最大のメリットと、考える人も多いと思う。かつては、ほんの一部の特権的なポジションを得た人しか、海外渡航はできなかった。しかし今は、「お金と時間さえあれば」誰でも、海外渡航できるようになった。ゼミのメンバーの中にも、アメリカ・ヨーロッパ・中国・韓国等への渡航を経験した者がいる。海外渡航は、視野を一挙に拡大し、人間的・知的なレベルアップをもたらす絶好の機会を与えてくれる。

グローバル化の進展の中で、G20・WTO・IMF・世界銀行等、政治経済的な次元での包括的な国際調整を実施する制度・機関等が構築されてきており、地球レベルでの平和的な統合という可能性すら考えられるようになってきた。

しかし、グローバル化の進展は上記のような多大なメリットをもたらす一方で、マイナスに感じさせるような、さまざまな現象も惹起させてきている。例えば、グローバルレベルでの市場競争経済の影響で、日本の多くの人々の賃金は全般的に下落傾向にある。実際、かつての日本の人々の「上昇志向の意識」は薄れ、質素な生活を志向する（せざるをえない？）ような人も増えている気もする。

逆に、少数派ではあるが、グローバルビジネスの中で、過去の時代には考えられなかったような莫大な富を獲得する人もあらわれている。一億総中流とまで言われた日本のかつての「平等化された社会」から、いわゆる「格差社会」の様相を現出させてきている。

激しいグローバル競争の中で、地域の企業・店が倒産するケースも出てきている。近年の、TPP などの日本を巻き込む国際的な自由経済拡大の潮流にも多様な議論がある。

外国の方が多数到来することを歓迎する人が多くいる一方で、異文化理解・相互理解が進まず摩擦が起きるとか、犯罪の発生の多発の可能性など、予測不可能なことから、さまざまな危惧を語る人もいる。

グローバル化のマイナス面は、ある意味で、人心を荒廃させる遠因にすらなる可能性を秘めている。

私たちゼミの基本スタンスは、「グローバリゼーションはストップをかけるものではなく、人類史における画期的な潮流として、受け入れ発展させるべきである」というところにある。

グローバリゼーションは、多様な問題を乗り越え、やがて平和的にランディングさせる必要がある。そのためには、迂遠なようであるが、「世界の一人一人が、出会い、対話し、交流する」ことこそが必要であり、そのような活動を歴代のゼミ生は、「グラスルーツグローバリゼーションー草の根・地域からの地球一体化推進ー」と呼び、活動してきた。

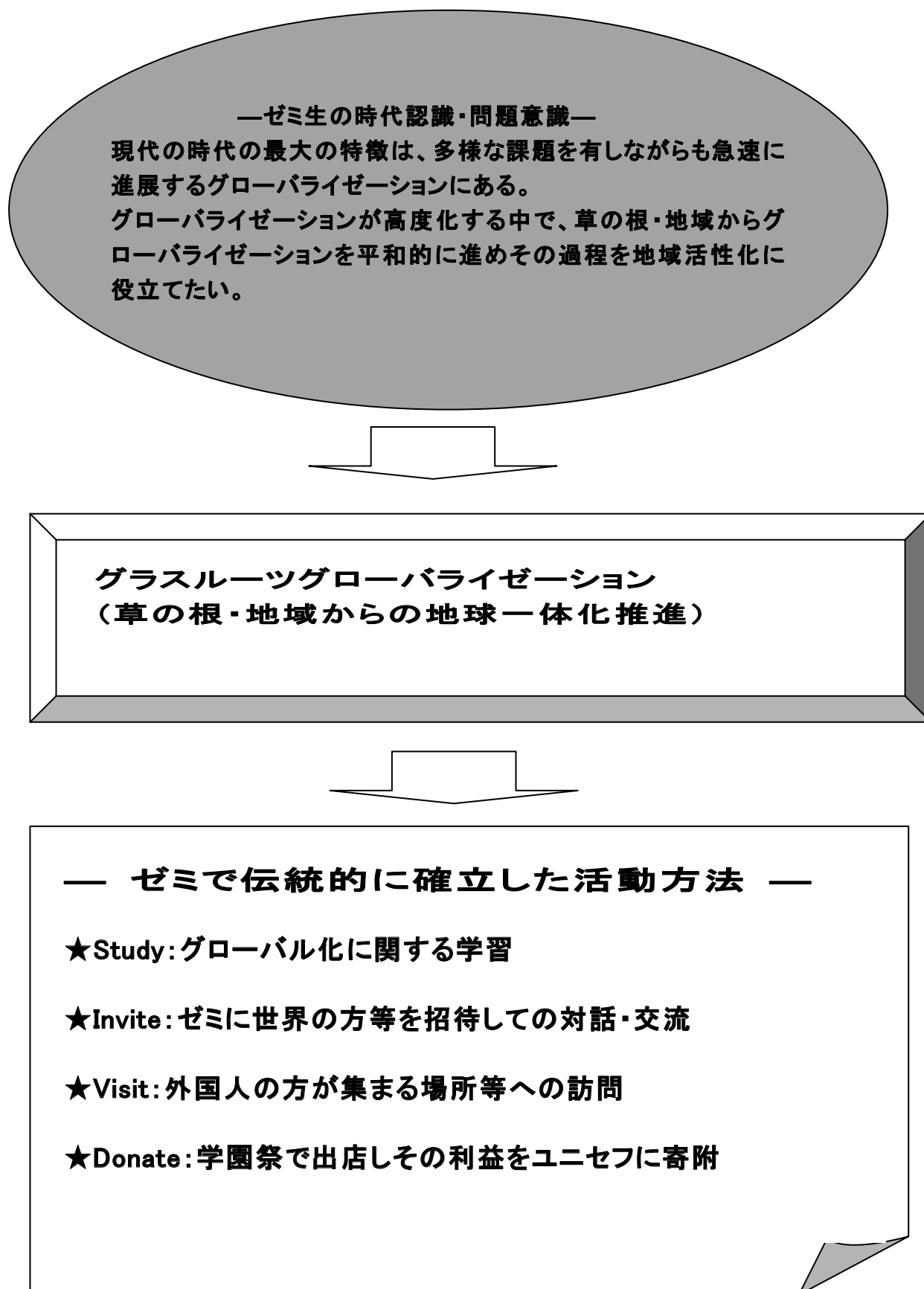
実際、世界各地では、姉妹都市・地域間の国際交流活動など、草の根の国際交際活動が既に、活発になってきている。世界各地での「グラスルーツグローバリゼーション」の拡大こそが、グローバル化を平和的にランディングさせ行く底流となると、私たちは確信している。

私たちのゼミでは、「グラスルーツグローバリゼーション」の具体的な方法として、以下の4つを、伝統的手法として確立し、先輩から後輩へ、歴代のゼミ生に、受け継がれてきた。

即ち、第1に、グローバリゼーションに関する学習(Study)、第2に、世界から来られた外国人の方等をゼミに招待しての対話・交流(Invite)、第3に、外国人の方が集まる場所等への訪問(Visit)、第4に、学園祭に出店しその利益をユニセフに寄附する(Donate)、である。

本レポートでは、今年度一年間の活動を報告したい。

図 1：ゼミ生の時代認識・問題意識と「グラスルーツグローバリゼーション」



## 1. Study

私達は 4 月・5 月を中心に、グローバリゼーションについて徹底して学習した。本年度の学習方法としては、皆で、グローバリゼーションに関する様々な資料を持ちより、ブレインストーミング形式で、ディスカッションを行うという方法をとった。

### 1.1 グローバリゼーション全般に関するディスカッション

4 月は、グローバル化全般に関する議論・学習を進めた。以下は、その資料・議論の主要部分である。

ゼミ長：ゼミでは、歴代の先輩によって、グローバル化と地域の関係を中心に、活動を行ってきました。ゼミで、グローバル化を中心にフランクな議論をしたいと思う。

先ず、歴代の先輩から受け継いできた基本認識を、紹介したい。

グローバリゼーションとは、英語では「Globalization」、日本語では「地球一体化・グローバル化」、中国語では「全球化」と呼ばれています。グローバリゼーションとは、「経済、情報、政治、文化、人々の意識など、あらゆる点で世界的交流が盛んになり、世界全体が一体化し行く、人類史における画期的なトレンド」であると定義できる。

そして、グローバリゼーションは、今後も急速に高度化すると予想され、それは基本的にストップをかけるものではなく、多様な調整過程を経ながら、効果的に受け入れていくべきものであると考える。

学生：グローバリゼーションは、世界レベルで、さまざまな恩恵をもたらすことになってきている。

先ず、経済的な視点から整理してみよう。

グローバリゼーションは、確実に世界レベルで経済規模を拡大させてきた。例えば、1989 年約 2000 兆円だった世界 GDP が、2010 年約 6000 兆円と、グローバリゼーションの本格的進展の、たった 20 年間で、世界 GDP が 3 倍に拡大した。

世界レベルで、グローバリゼーションは、経済を拡大すること、富を増やして行くことに成功していると言える。

グローバリゼーションは、FTA の拡大に象徴的なように、世界レベルで自由貿易を活発にし、人々の日常生活に、世界中の商品を届け、全般的にその価格を下落させてきた。

インターネットや衛星テレビの普及によって、海外情報とのコンタクトを可能にしてきた。

さらに、ジェット旅客機の拡大、航空会社間競争の活発化、出入国管理の簡素化・迅速化等によって、海外渡航の拡大を実現し、世界中の人々が、直接的に出会う機会を増大させてきた。

総じて、グローバリゼーションの恩恵は莫大であり、このような恩恵を考えても、グローバリゼーションは、効果的な調整過程を経ながら、受け入れていくべきと

考える。

ゼミ長：ここで、グローバリゼーションの次元を整理しよう。

つまり、グローバリゼーションと言っても、ここまで発展してくると、かなり、いろいろな次元があるということだ。

グローバリゼーションの多様な次元については、以下のように整理できる。

即ち、第1に、エコノミック・グローバリゼーション（経済的地球一体化）。輸出入や直接投資、雇用等多様な次元での、経済的地球一体化である。TPP もエコノミック・グローバリゼーションの中で、起きている現象であると言える。

第2に、インフォメーションリレイティド・グローバリゼーション（情報関係の地球一体化）。インターネットや衛星放送、また最近の Face book などに象徴的な、世界的レベルでの情報共有が、インフォメーションリレイティド・グローバリゼーションである。

第3に、カルチャラル・グローバリゼーション。世界中の人が、世界中の多様な文化、ファッション、アート、音楽などの文化を知り、コンタクトをとれるようになる文化的なグローバル化だ。

第4に、ダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーション。世界中の人がボーダーを越え、直接、交流して行くことになるのが、ダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーションだ。「国民意識」から「世界市民意識」が生まれる可能性が出てきている。

第5に、ポリティカル・グローバリゼーション（政治的地球一体化）。国連や G20、EU の諸活動のような世界一体的な政治である。



表 1：ゼミの学習資料「グローバリゼーションの多様な次元」

グローバリゼーション	エコノミック・グローバリゼーション (経済的地球一体化)	世界中の商品、資本、店、会社、工場の相互交流が進む経済的なグローバル化
	インフォメーションリレイティド・グローバリゼーション (情報関係の地球一体化)	世界中の情報が衛星テレビ、インターネット等を通じて、伝播され、またリアルタイムで、世界中の人が、同時に共通の情報にコンタクトできるようなる情報面でのグローバル化
	カルチャラル・グローバリゼーション	世界中の人が、世界中の多様な文化、ファッション、アート、音楽などの文化を知り、コンタクトをとれるようになる文化的なグローバル化
	ダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーション	世界中の人がボーダーを越え、直接、交流して行くことになるダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーション。「国民意識」から「世界市民意識」が生まれる可能性がある。
	ポリティカル・グローバリゼーション (政治的地球一体化)	ウェストファリア条約以来の国民国家を国際政治の基本単位とする状態から、G20 に象徴されるような多数の国家間での活発な政策調整等の制度が機能していく政治的なグローバル化。 国家が連合して「国家連合」を形成して行くトレンドも進んでいる。事実、ヨーロッパはEUという国家連合を形成し、EU大統領という国家連合の指導者を選出するまでになっている。

学生： なるほど、このようなグローバリゼーションの分類を進めれば、もっとたくさん、出てくるような気がするよ。

副ゼミ長：確かに、僕なんかはスポーツに興味があるけど、近年の、スポーツ選手の所属チームの移動は、国家の枠を完全に越えているよね。

野球選手なんか、日本とアメリカを、行ったり来たりでしょう。

サッカーなら、日本とヨーロッパをどんどん行き来している。

これは、スポーツ・リレイティド・グローバリゼーションと呼べるかな。

学生： 製品開発の分野でも、グローバリゼーションは、どんどん進展している。  
私たちが使っているパソコンの本体的頭腦的な部分は、アメリカの技術が多い。  
周辺機器は、アジア製品が多いって聞くよ。

服なんかも、例えば、デザインは日本で行って、生産は東南アジアでなんてことが起きているようだ。

マニファクチャリング・リレイティド・グローバリゼーションと言える。

ゼミ長： これからも、グローバリゼーションは、ますます多様な次元で、進められて行くということだね。

学生： 確かに、グローバリゼーションを視点に、世界的なスケールで考えれば、希望も見えてくる面も多いよ。

日本は、人口減少でしょ。

ここ 20 年程、少子化対策やっても全く効果ない。

でも、世界には、日本に入ってきて長期や永住じゃないにしても、働きたいなんていう人は、ものすごく多い。

だったら、もっとうまく、入国させたらよいし、働く人が増えれば、人口は維持できるということでしょう。

外国から来て働く人は、当然、消費税や直接税を払ってくれるわけでしょう。

財政や労働力の面から言えば、プラスにきまってるんだ。

副ゼミ長： その辺は、アメリカを見習ってほしい。

アメリカは、大きく言えば、人間を入れる移民は、2段階システムなんだ。

つまり、「長期に住んでよいという永住権（グリーンカード）」と、「完全なアメリカ人になってくれっていう市民権」の、2つがあるんだ。

学生： 永住権と市民権は、何が違うんだい？

副ゼミ長： 永住権は参政権がない。市民権は参政権があるということだよ。

学生： 日本のシステムも、もっと柔軟に考えてもよいかもしれない。

副ゼミ長： 個人的には、グローバリゼーションには、大きな恩恵を受けてきたと思う。

外国の製品をたくさん、安く買えるようになっている。

何ととっても、海外渡航がどんどん可能になっているのは、大きい。

高校生の時、長岡市と姉妹都市関係にある、テキサスのフォートワース市に行けた。

長岡大学に来てからは、「グローバルスタディ」という授業で、アメリカのボストンとニューヨークに行けた。

学生： 確かに、海外渡航のチャンスが拡大したというのは、グローバリゼーションの最大の恩恵の一つかもしれなね。

かつて、そうだな、1970 年くらいまでは、本当に海外に渡航するチャンスは少なかったって、聞くよ。

海外に行ける人なんていうのは、例えば、男性だったら、外交官や商社マン、女性だったら、昔で言うスチワーズくらいだったとか。

だから、若者の憧れの人気職業は、外交官とか商社マン、スチワーデスだったとかって聞くよ。

ゼミ長： 今は、「お金と時間があれば、誰でも海外渡航できる」ようになった。すごい時代だね。

学生： 実際、海外に行くと、違いますか？

副ゼミ長： とても大きなインパクトがある。

第一に、行ってみないと分からないことが、たくさんあるんだ。

アメリカについては色々勉強して知識も蓄積したつもりだったが、それでも、行って初めて知る・習うことは、極めて多い。

学生： 例えば、どんなことがあった？

副ゼミ長： テキサスなんかは、現在は、コンサーバティブなエリアだって言われる。

コンサーバティブって、日本語で「保守的」という意味なんだけど、日本人の若者は、「保守的」とか言うと、何か「古い」とかいうイメージを持つでしょう。でも、実際、アメリカに行って、コンサーバティブなエリアに行って、コンサーバティブって言う意味が分かった。

具体的に言えば、コンサーバティブなカルチャーでは、アメリカの伝統的基幹的な価値観、つまり、自由・独立心・強さ・民主主義・自治・小さな政府のような考えを大切にしている。

宗教も重視されている。皆、信仰心があつく、教会なんかには行っているし、祈っている。宗教は人間を根本的に律するものと考えられ、大切にされている。

コンサーバティブな文化的背景は、政治にも力を及ぼし、キリスト教の保守派のグループなんかが中心になって、1980年代以降どんどん力をつけ、共和党政権の支柱的支持層にまでなっている。

その辺の事情は、やはり行って初めて、よく理解できたんだ。

学生： コンサーバティブの反対は、リベラルとか聞くけど、それはどんな感じなんだい？

副ゼミ長： リベラルなエリアは、雰囲気や、人の気質が、ちょっと違う。

ボストンやニューヨークに行ったけど、そこは、基本的にリベラルなエリアってことになっている。

リベラルな人達は、自由競争、小さな政府オンリーじゃなくて、福祉なんかを行政によって充実させるべきと、考える人が多い。

ライフスタイルは、極めて、自由な生き方をする人なんかも多い。

国際政治的な感覚では、平和主義、国際協調主義的な志向の人が多いようだ。

ゼミ長： 少しここで、別の視点から、グローバリゼーションを考えてみよう。

グローバリゼーションには、否定的な人もたくさんいるのが現実だ。

現実には現実で、認識する必要がある。

副ゼミ長： 確かにそうだ。

グローバル化に否定的な人の意見にはどんなことがある？

学生： 先ず、グローバル競争にさらされるグループだ。

新潟県の製造業・食品業界など、さまざまな業界は、安価な労働力を背景に安

- い商品をつくる国の企業に、近年おされて大変だよ。
- 学生： それはよく聞く話だね。
- でも、製造業については、自社の技術力を上げて質的なレベルで競争力を上げていたり、あるいは、自社の工場自体を、労働力が安価な海外にシフトしたりして、変化させ生き残っている面もある。
- 少なくとも製造業については、グローバル化は回避できないと受け入れ、戦いを開始してその方向で、進めているという感じじゃないかな。
- 学生： 確かに。最近、サービス業も同じだよ。
- 副ゼミ長： サービス業のグローバル化対応は、どうなってる？
- 学生： 観光地のホテルなんかは、日本以外の顧客の集客に力を入れているよ。英語、韓国語や、中国語の表示も増えてきたし、会話の学習をする従業員も多いと聞くよ。
- ゼミ長： 旅行会社なんかも、海外で営業するようになるって聞くよ。上海なんかで、日本でやっているのと同じように、営業活動をするというんだ。
- 学生： 企業は、すごいね。
- 民間企業は、すごい。
- 常に、生き残りをかけて、どんどん変化するってわけだね。
- 資本主義のダイナミズムだね。
- 学生： 農業はどうなんだ？
- 学生： 微妙なテーマだね。
- 食糧自給率の問題もあるし、食べ物はちょっと違うと、考えるのも普通かもしれない。
- 学生： 「地産地消」なんかも、地域の農業を守る一つの手法なんだろうけど。
- ゼミ長： 確かに、国家安全保障上慎重に考えないといけない分野もある。
- 食糧・軍事関係・エネルギー・教育なんかは、そうだと思う。
- 外国の供給に安易にゆだねられない分野ともいえる。
- 学生： その辺の、グローバリゼーションと自国産業の調整の問題は、大きな課題だね。
- ゼミ長： そうなんだ。
- グローバリゼーションとは、実に大きな希望をもたせる面も多いが、逆に、複雑な「現実」との、有効な調整を必要とするような課題も多いんだ。
- ゼミでは、その辺のことも、じっくり考えて学習し、活動に取り組んで行く必要がある。

## 1.2 グローバリゼーションの発展過程に関するディスカッション

5月、グローバル化の発展過程を中心に議論・学習を進めた。以下は、その資料・議論の主要部分である。

- ゼミ長： 最初に、歴代のゼミで、まとめてきた議論をベースに議論を始めよう。

グローバリゼーションの発展過程に関しては多様な分析があるが、先輩達は次のようにグローバリゼーションの発展過程の理解をまとめてきた。

グローバル化の発展過程の分析は、1800 年代頃からはじめたようだ。

1800 年代は、資本主義経済が急速に発展して、1800 年代から 1900 年代初頭にかけて、世界各地で、国家 (Nation-state) が急速に確立し、やがてその潮流は、「国家第一主義 (State First)」とも言える過度な国家中心の時代にまで高まっていった。

そしてそれは、第 1 次世界大戦、第 2 次世界大戦という国家が激しく衝突する極点に達したということだ。

副ゼミ長：1800 年から 1900 年代前半の世界を考えると、今のグローバリゼーションとは、全く対極的な時代だよな。

世界なんかより、国家・国家・また国家でしょう。

個人の思考スケールの限界は、国家までだってことだよな。

1800 年から 1900 年代前半の時代に、もし、「グローバリゼーション (地球一体化)」だなんていう、考え、言葉自体、人間の頭にはなかつたことだね。

学生：そこだよ。人間の思考は、驚くほど、時代に制約され、影響されちゃうんだよ。

今、信じている、僕らの思考も、同じだよ。

今という時代、環境に、かなり影響された固定観念という面があるんだ。

簡単に絶対だと思わないことが必要だよ。

ゼミ長：さて、第 2 次大戦後についてだけど、国家主義からの修正が始まる。

この辺は、先輩たちからよく勉強してきた。

つまり、1945 年以降、極端な国家主義による悲劇の反省から、「国際協調主義」が発展したんだ。

そして、国際的な利害調整機関の活動を中心とした国際協調主義を具現化する制度が徐々に構築されていった。

その代表的なものが、国際連合 (UN)、国際通貨基金 (IMF)、世界銀行 (The World Bank)、関税と貿易に関する一般協定 (GATT) 等です。

世界全体で、国益を越えた「世界共通の利益」を指向するトレンドが本格的に出てきたと言える。

学生：2 回の世界大戦を経験して、人類全体で反省し考えたってことでしょうか。人類全体も人間も同じで、経験とその連続で、変化するんだね。

副ゼミ長：そこでもう一つ重要なことに気がついたんだ。

国連、IMF、世界銀行、GATT とか、出てきたでしょう。

その辺の流れをつくった主力は、やはり、当時、国際政治で一番力をもってきた、アメリカでしょう。

つまり、その時代の世界はやはり、一番力がある大国、超大国なんかが、どう動くかにかかっていると言えるんじゃないかな。

もっと言えば、一番力がある大国、超大国がアメリカだとしても、そのアメリカの国家的方向に影響を与えるリーダーシップをとるスタッフが、どう考え、

動くかにかかっていると、考えるべきじゃないかな。

つまり、もしアメリカのトップスタッフあたりが、いわゆる孤立主義で、世界にはかかわりませんなんてことを、考え出したら、国連、IMF、世界銀行、GATTなんかは、出てこなかったでしょう。

学生： 確かに、そうだね。

その辺の事情は、ルーズベルト政権・トルーマン政権のトップスタッフあたりの動きを勉強して、分かってくるのかな。

ゼミ長： さて、話を第2次大戦後のその後、50年代以降に進めよう。

国際協調は、進むが、それでも、1950年代、60年代、70年代と、世界は大枠で、アメリカを中心とした自由主義・民主主義・資本主義圏、ソビエト連邦を中心とした社会主義・計画経済圏に分断され、地球一体化、グローバル化とはとても言えない状態が長く続く。

世界の多くの人々は、このような「分断された世界体制」が半永久的に続くものと考えていたと聞くよ。

副ゼミ長： 僕らの世代は、1990年代生まれが多いから、資本主義はわかるけど、社会主義・計画経済圏とか言っても、ちょっとピンとこないんだよね。

学生： そうだね。なんで、そんな、社会システムが、人類にあったのかってことでしょう。

ソ連・東ヨーロッパ・モンゴル・中国・ベトナム・キューバなんか、世界の3分の1程が、社会主義というシステムを作動させた。

学生： やはり、資本主義の初期の矛盾が原因じゃないかな。

資本主義の原型は、弱肉強食の強烈な競争経済でしょう？

成功する人間、グループは、どんどん成功して富を増す。

貧困のサイドはその大半がそこから抜け出せない。一部は、抜け出すかもしれないが。

それでも、大半は貧しい。つまり、極端な、格差社会だ。

そこで、民主主義制度なんかがなんとか機能すれば、なんとかなるが、独裁だとか、制限民主主義とかで、金持ちで税金を払っている者しか選挙できませんみたいな状態なら、そんな格差社会は直るわけない。

それなら、革命だってことになる。

働く人が、革命を起こして、生産手段つまり、工場や会社を掌握して、その後、工場や会社を共有・国有にして、計画的に運営すれば、景気変動もなく、うまく安定的に経済や社会は、機能するって考えたんじゃないかな。

革命後の政治は、どうしても金持ちの意見や影響力が強くなるような、いわゆるブルジョア民主主義はやめて、働く人たちのグループが、最も力を持つようにしよう。それが、プロレタリアート独裁、現実の一党独裁で、その政党が政府機関をも動かすってシステムにしようと考えた。

起点には、「資本主義の格差社会で虐げられた貧しい人のために」というのがあった。

副ゼミ長： なるほど。

貧しい人を救いたいとかいってできた制度が、なぜ最終的になくなって行くのだろうか？

学生：そこは、いろいろ議論があるんだろうけど。  
結局うまくいかなかったってことかな？

ゼミ長：その面があると思う。  
社会主義の計画経済で、平等化した社会の実現は、あるレベルまで達成できたかもしれない。  
しかし、長期にわたって、企業・工場の共有・国有だったら、どうなるのか？  
競争がない、つぶれないっていうことがどういうことかを、考える必要があるよ。

学生：うーん。  
どうかな。考えるな。  
確かに、個人でも、企業・組織でもそうなんだろうけど、つぶれないとか、なんとか生活できるとかいう、全く危機感のない状態っていうのは、ちょっと、だめにするというか、劣化させますよね。

ゼミ長：そうなんだ。  
危機感のない社会システム、制度、組織、そこに存在する人間の行動は、どんどん、非効率になって行く可能性を、内包しているんだ。  
実際、社会主義体制下の国有企業なんかでは、だんだん生産性は上がらなくなり、生産する物の質も良くならない状態が続いたと聞くよ。

副ゼミ長：西側の資本主義体制では、企業も、個人も、競争にさらされ、危機感があるから、どんどん工夫して努力して、がんばる。その総体として、経済も社会も発展して行ったということだね。

ゼミ長：そうなんだ。  
それに、古典的な資本主義システムとは違って、第2次大戦後の資本主義国の大半は、福祉政策を充実させる。  
その財源として税が必要なんだけど、累進課税制度で富裕層に重く課税して、その財源もあって福祉が充実する。結果として富裕層から貧困層への所得移転が実現する。次第に、古典的な資本主義は、ベースは競争経済だけど、格差が是正された、福祉のある、より平等化された資本主義社会に変化して行った。

学生：社会主義体制も、非効率性はあったが、それでも、極端に不満があったり餓死者があって、崩壊するといったことでもなかったのではないだろうか。  
西側の資本主義みたいになる必要もないってことで、独自路線で行けば、それも十分可能だったのではないだろうか。

副ゼミ長：確かに。  
今の視点は重要かもしれない。  
事実、1970年代の国際政治で見れば、ベトナム戦争での、ある意味で社会主義圏の勝利に象徴されるようなことだってあった。  
対照的に、1970年代の西側資本主義圏は、石油ショックもあって、スタグフレーションだなんだって、経済は劣化状態にあった。

- 1970年代をみると、社会主義圏の優勢のイメージもあったようだが。
- 学生： 不思議だよね。そういった時代に影響されてたのか、日本や西側の、資本主義圏だって、社会主義的制度の信奉者は、かなりいたって聞くよ。
- やはり、人間の思考は、時代にかなり影響されるんだね。
- 今、この時代、この社会にいる自分たちの、当然だと思っている考えや価値観も、絶対的なものではないと、常に警戒して、考える方が良いね。
- 世界的視野とか、多文化的視野、超歴史的視野から、自分の頭で考えないといけないね。
- ゼミ長： 1970年代までの流れが続けば、おそらく、世界では、社会主義圏の拡大が持続したと思う。
- しかし、時代が大きく変化したのは、1980年代だ。
- 1980年代の国際政治の変化に、本格的なグローバリゼーションへの突破口が現出したんだ。
- その流れは、誰も予測できなかった。
- 学生： つまり、1981年のアメリカでのレーガン政権の誕生ですね。
- レーガンの基本スタンスは、「力による平和 (Peace through Strength)」だった。それは、国際政治学者アルバート＝ウォルステッター等の思想を基盤としていた。
- つまり、レーガンは、圧倒的な、軍事力、技術力、諜報力、経済力、メディア力、文化力などの「力」を最高度に高め、社会主義圏の打倒を目指した。
- 実際、レーガン政権第1期には、猛烈な軍事力強化が断行された。
- 陸海空の通常兵器、戦略兵器の開発、拡大を進め、中距離核ミサイルもヨーロッパに配備された。
- さらに宇宙空間から敵対国のミサイルを捕捉し破壊するといういわゆるSDI (Strategic Defense Initiative) 構想まで打ち上げた。
- 特に、SDIは、それまでのMAD (Mutual Assured Destruction: 相互確証破壊) という、米ソの核抑止力論、つまり、戦略核兵器は現実には使えないという国際政治理論自体を止揚する可能性を有するもので、当時のソ連のトップリーダー達に大変な脅威を与えた。
- また、レーガンは、イギリスのサッチャー政権、日本の中曽根政権、ドイツのコール政権等と強い関係を構築し、外交ネットワーク上でも、ソ連を包囲し追いつめていった。
- 学生： レーガンの手法に対して、世論はどうだったのか？
- 副ゼミ長： 賛否両論だったって聞くよ。
- アメリカには保守派が多いから、結構、賛成・支持者も多かったようだけど。
- 事実、レーガンは、2期目の大統領選挙は、アメリカ50州のうち、なんと、49州で勝利してしまったくらいだ。
- 学生： アメリカの人は、基本的に、レーガン政権の手法を支持していたということですか。
- 副ゼミ長： そう思う。



でも、日本やヨーロッパでは、かなり、反戦反核運動があったようだ。  
特に、ヨーロッパは、中距離核ミサイル（INF）の配備があったから、大変だ。

ゼミ長： 何れにしても、レーガンは「力」で社会主義圏打倒を進めた。  
「力」を強化して「力」でもって現実の国際政治を変える戦略を進めた。  
レーガン政権の力で圧倒する戦略に、1980年代前半、ソ連も当初、軍事戦略、外交戦略で対抗した。  
しかし、その過程で不思議なことに、ソ連の最高指導者が、ブレジネフ、アンドロポフ、チェルネンコと、3人たて続けに死去していった。  
そして1985年3月に、ゴルバチョフがソ連の最高指導者に就任した。  
ゴルバチョフは、それまでのソ連の指導者とは違っていった。  
ゴルバチョフは基本的に、非効率な経済活動に浸食されたソビエトの国内社会経済改革の必要性を強く感じていた。

学生： ゴルバチョフは、なぜ、変革を進めたんだろう？

副ゼミ長： 僕は、ゴルバチョフが、「現実の西側」を見ていたからだと思う。  
最高指導者になる前に、かなり、ヨーロッパなんかに行っている。  
中国の鄧小平も同じでしょう。かなり、西側の国の現実、そのダイナミックな成長、発展、繁栄、人々の活気ある姿をみている。  
「百聞は一見にしかず」なんだ。

世界を現実に見た人は、強いよ。その後、改革開放を断固進めた。

ゼミ長： ゴルバチョフは、国内経済社会を活性化するために、ペレストロイカ、グラスノスチといった、「自由度を許容した国内政策」を進めていった。  
そして、国内改革を進める上で、対外戦略での負担を軽減したかったゴルバチョフは、「新思考外交」を打ち出し、積極的に西側との対話、軍縮に臨んでいった。

その流れの中で、1985年ジュネーブ、1986年レイキャビック、1987年ワシントン、1988年モスクワでの歴史的な、レーガン・ゴルバチョフによる米ソ首脳会談が開催され、INF（中距離核戦力）全廃条約、戦略核兵器制限条約への進展など、具体的な成果が生まれていった。

さらに、ゴルバチョフはブレジネフ以来の社会主義同盟諸国の国内政策等をソ連が制限する作用を持っていた「制限主権論」との決別を宣言し、社会主義諸国が自らの意志、世論で国のかたちを決めて行くことを認めた。

その結果、世界、特に、ヨーロッパの社会主義諸国で急速に、政治的には民主化、自由化が、経済的には資本主義型の市場経済化が進んだ。

1989年11月、東西分断の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、同年12月、自由主義圏・社会主義圏間での冷戦を終結する宣言がなされた。

1991年、急速な自由化、民主化、市場経済化のうねりの中で、第2次世界大戦以降国際政治における社会主義陣営の司令塔として君臨してきたソビエト社会主義共和国連邦自体が消滅した。そして、世界の社会主義体制は一举に消滅に向かった。

学生： ゴルバチョフやソ連のトップスタッフは、社会主義体制の維持を考えなかつ

たのだろうか？

副ゼミ長：どうなんだろう。

確かに、1991年の8月には、社会主義体制の維持を狙った、政変が起きたけど、失敗した。

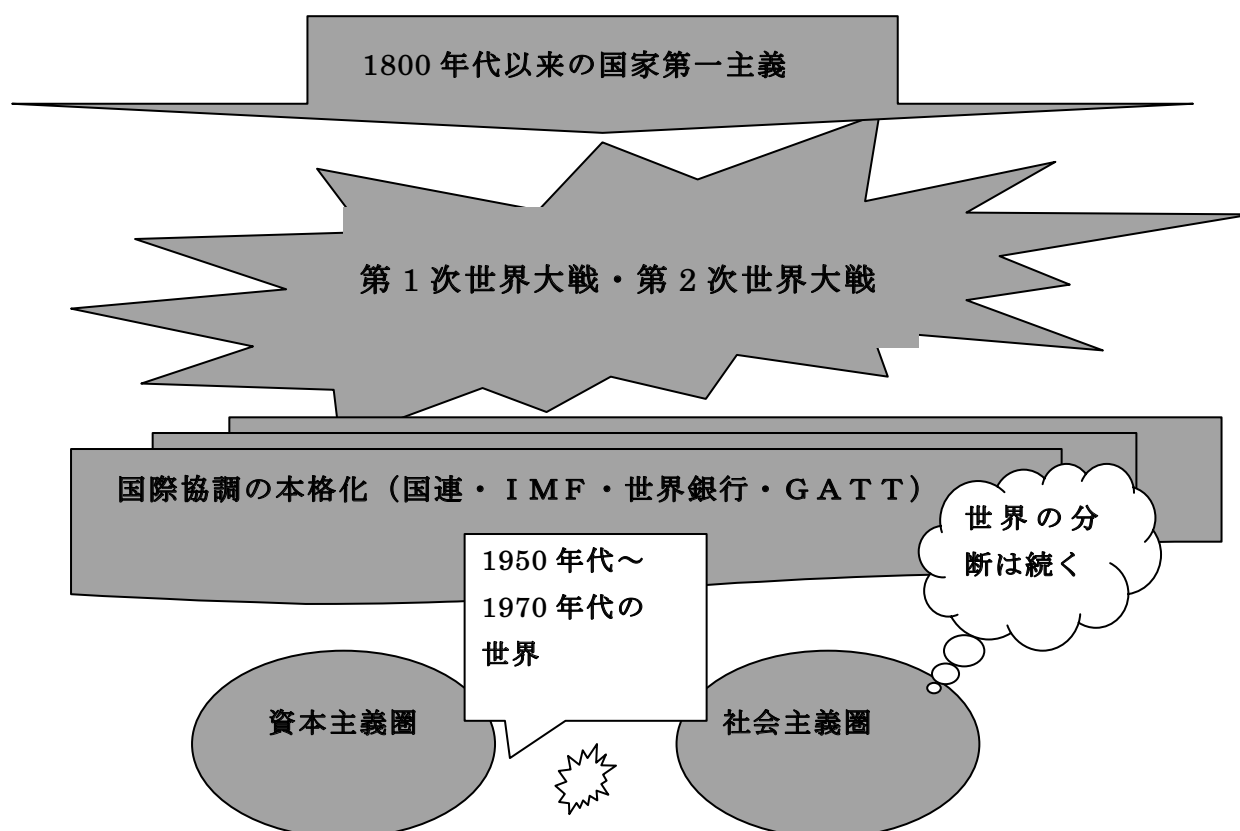
ゴルバチョフの時代の初期、つまり、1986年・87年あたりで、絶対に社会主義体制を維持する、国際政治面でも、社会主義共同体を固持する、そのための制限主権論も必要だと、つっぱねる路線でいけば、維持できたんじゃないかな。

学生：少なくとも、自然に崩壊したわけじゃない。

何か強力な、アプローチがなかったら、あれだけの、国際政治で世界を席卷した、ソビエト社会主義共和国連邦が、崩壊するわけがない。

ゼミ長：何れにしても、1990年代後半、2000年以降、全世界にさらに、自由主義、市場競争システム、資本主義、民主主義が広がり、世界各国の経済的な結びつきが加速度的に緊密になり、地球全体が一体化して行くグローバル化の時代に突入していった。

図 2：ゼミの学習資料「グローバリゼーション発展過程概略」



### —1980年代の衝撃—

アメリカのレーガン政権による大攻勢

ソ連のゴルバチョフによる大改革

1990年代・2000年以降の急速なグローバル化

表 2：ゼミの学習資料「グローバリゼーション関係年表」

年代	歴史的事項
1800 年代	国家（Nation-state）の確立と拡大の時代 「国家第一主義（State First）ないし国家主義」
1914 年～18 年	第 1 次世界大戦（国家主義の悲劇）
1939 年～45 年	第 2 次世界大戦（国家主義の悲劇）
1940 年代後半 1950 年代 1960 年代 1970 年代	一国家主義の悲劇の反省から国際協調主義へー  < 国際協調主義を進める制度の確立 > ①国際連合（UN） ②国際通貨基金（IMF） ③世界銀行（The World Bank） ④関税と貿易に関する一般協定（GATT）  ↓ それでも世界の基調は「分断」 「西側陣営（自由主義・民主主義・資本主義圏） V S 東側陣営（社会主義・計画経済圏）」 という対抗軸
1980 年代	本格的なグローバル化への突破口が開かれた 10 年
1981 年	アメリカでレーガン政権の登場 「力による平和（Peace through Strength）」戦略 軍事力、経済力、パワーで、東側陣営を圧倒
1985 年	ソ連のゴルバチョフが最高指導者に就任 自由度を許容した国内政策・対外政策  ↓ 東側陣営の溶解ないし崩壊へ
1989 年	ベルリンの壁崩壊
1991 年	ソビエト連邦の崩壊
1990 年代後半 2000 年代	グローバル化（グローバル資本主義）の急速な発展

### 1.3 「グラスルーツグローバリゼーション」に関するディスカッション

5月後半に、グローバリゼーションが引き起こす諸問題と、グラスルーツグローバリゼーション（草の根・地域からの地球一体化推進）の活動の重要性を中心に、議論・学習を進めた。以下は、その資料・議論の主要部分である。

ゼミ長： グローバリゼーションの高度化はさまざまな問題を引き起こすことにもなっている。

この一点を、決して見逃してはならないと思う。

学生： 確かに、グローバリゼーションの急速な進展と共に、世界各地で相互理解の欠如、社会的調整の失敗から、地域紛争、動乱、戦争、宗教間対立、民族間対立、経済摩擦、経済格差など、深刻な問題が多発している。

グローバリゼーションは、一步誤ると、大規模戦争すら起こしかねない要素をはらんでいる。

副ゼミ長： 世界の全ての人々には家族があり、友人がいる。世界の人々は誰も、紛争、衝突、まして、戦争など、絶対に望んでいない。

「世界の人々が、グローバリゼーションの中で、平和に人生を送るようにするには、どうしたらよいのか」を真剣に考えるべきだ。

ゼミ長： 迂遠なようだが、根本的には、先ず、世界の人々が、世界の各地で、出会い、語り合い、友情を築いていくことが、最も大切であり、世界の各地で、グラスルーツの、草の根の、国際交流、人間交流、人間対話を、展開していくことが、グローバル化を平和的にランディングさせていくベースになると思う。

世界各地での、草の根の人間交流である、「グラスルーツグローバリゼーション」こそ、グローバリゼーションの諸問題を乗り越え、グローバリゼーションを平和的に高度化する上での、底流を創造するものであると確信する。

学生： その「草の根の国際交流」だけど、驚くほど、進んできているよ。

日本の大半の地域が、世界の地域と姉妹都市関係なんかを結んで、どんどん交流している。

長岡市もアメリカのフォートワース市や、ハワイのホノルル市と姉妹都市関係にある。見附市なんかも、ベトナムのダナン市と交流して、向こうの人も招待している。

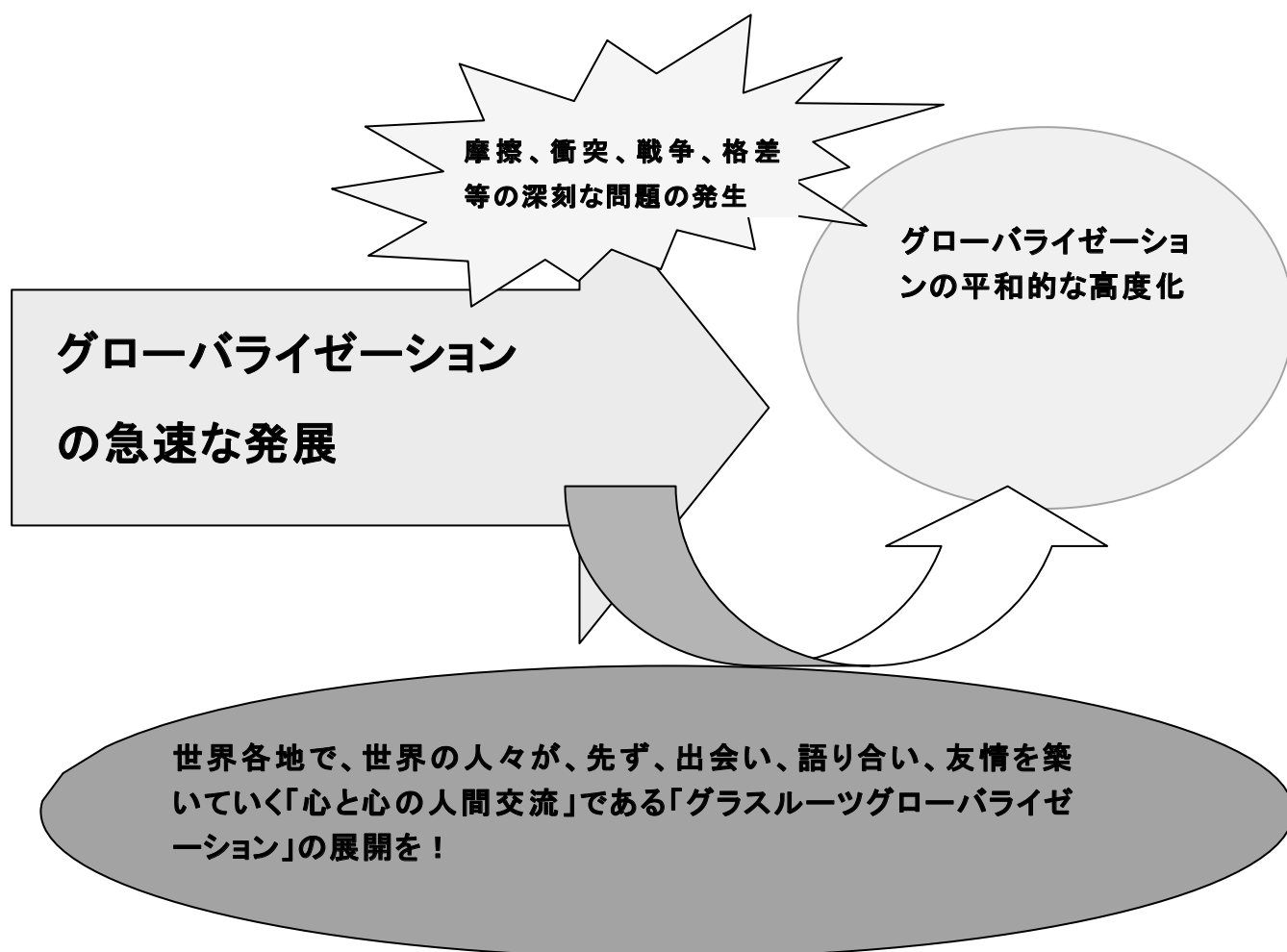
草の根の国際交流は、本当に美しいよね。一番大切だ。

ゼミ長： 今は、インターネットも発達しているし、航空機も発達している。

つまり、個人レベル、民間レベル、地域レベルの、国際交流、グラスルーツなグローバル化の推進ができる環境にある。

どんどん、それらを進めることが、グローバル化を平和的に高度化する底流でしょう。つまり、グラスルーツなグローバル化こそ、一番重要なことだということだ。ゼミでも、6期生・7期生・8期生・9期生と、今年で、国際交流をテーマにした、活動は、4年目だけど、その意義が、先輩から後輩へと、受け継がれてきた。

図 3：グローバル化の発展・諸問題とグラスルーツグローバル化の重要性



## 各地域で国際交流・人間交流は 活発化している！

### 長岡市

- ・ アメリカのフォートワース市・ホノルル市等と、姉妹都市関係にあり交流。

### 見附市

- ・ ベトナムのダナン市の方と交流。

### 小千谷市

- ・ 多くの市民の方がアメリカのオレゴン市の方と交流。

### 燕市

- ・ アメリカのシェボイガン市と姉妹都市関係にあり交流。

★新潟県・全国・世界の多くの地域は既に、独自の国際交流・人間交流を進めている。

ーグローバルイゼーションについて学習するゼミ生ー



## 2. Invite

グラスルーツグローバルイゼーションの活動として、ゼミに国際交流で活躍する方や、外国の方を招待し対話・交流し、さまざまなことを学んだ。以下はその時の対話の概略である。

### 2. 1 アメリカ人 IT コンサルタント：デビッド＝ブズロー氏を招待

5月、アメリカ人 IT コンサルタント デビッド＝ブズロー氏をゼミに招待し、意見交換を行った。

学生：今日は、お招きできて、うれしく思います。  
よろしくお願いします。

ブズロー氏：こちらこそ、よろしくお願いします。  
何でも聞いて下さい。大いに語り合しましょう。  
対話が大切です。対話こそ、未来を拓く鍵です。  
いつの時代も次に続く、若い人の活躍が大切です。  
地域や世界も、皆さんにかかっています。

学生：先ず、日本にこられたきっかけは、何でしたか。

ブズロー氏：よくきかれる質問なんだ。  
私はアリゾナ出身で、大学はボストンで、学んだ。  
大学院を修了するころ、日本の政府の英語学習プログラムで教師になるチャンスがあって、日本に来たんだ。  
日本の学校で英語を教えはじめた。それ以来、ずっと日本にすることになった。

学生：日本については、全般的にどのような思い、印象がありますか。

ブズロー氏：最高に良い所じゃないか。

学生：どんなところが、ですか。

ブズロー氏：世界から見たら、日本は「ベストなエリア」の一つだよ。断言できる。  
世界的視野にたつと、よく分かるんだ。

学生：具体的に教えて下さい。

ブズロー氏：第1に、競争が激しくないところかな。(大笑い)  
アメリカで生活してごらん。  
自由で開放的で、最高な面もあるが、とにかく競争は激しいよ。  
猛烈な競争社会だよ！  
例えば、大学卒業したって最初は、1年や3年は、契約スタッフだよ。  
成果が出なければ、どんなエリートの若者も、組織を辞めざるをえない。  
企業なんかの組織自体が、壮絶な競争にさらされていることが、背景にある。  
収益が出ない、戦略のミスでつぶれる会社なんか、たくさんある。



日本は、それに比べれば、競争は緩やかだよ。

学生：　　そうですか。驚きました。

それにしても、それだけアメリカが競争を激しくするメリットはなんですか？

ブズロー氏：メリットは、国家全体で言えば、あれだけの、競争社会だから、どんどん、良いものが出てくるのは、間違いないよ。

企業は、生き残りのために、どんどん新しい魅力的な新製品、新サービスを、出していく。

アメリカ企業の発展の原動力だね。

まあ実際のところ、コンシューマー（消費者）としては、良いけどね。（笑い）供給する側、企業側は、きついでしょね。

でも、仕方ない。

アメリカ人は小さい頃から、そういう環境にいるから、激しい競争社会が普通だと感じている。

だから一言でいえば、常に自分に力をつける、自分のレベルアップに挑戦するっていうカルチャーがあるんだね。アメリカには。

一生涯ラーナー（学習者）じゃないといけないっていうカルチャーだ。

学生：　　日本もグローバル化で、競争が激しくなってきたって言うけど、桁が違うんですね。

ブズロー氏：グローバルイゼーションとは、地球レベルでの競争だ。

日本も、もっともっと、世界を相手に競争するしかない時代になると思う。だから、結局、自分なんだ。

自分が常に、力をつけて行くことだよ。

結局、自分が一步一步、前進する、力をつける、勝って行くことだ。

一生涯勉強だし、挑戦だし、自分のレベルアップだと、考えることが大切だよ。

学生：　　グローバルイゼーションは、「強い生き方」を必要にするんですね。

ブズロー氏：そうだ。

自分で自分を守るしかない。自分で自分を高めるしかない、強くなるしかないんだ。

学生：　　次の質問に行きたいのですが。

今回のアメリカ大統領選挙についてです。

現職、民主党のオバマ大統領、共和党候補のロムニー候補についてどう思いますか？

ブズロー氏：現在は、かなり接戦だね。

最後のポイントは、経済じゃないかな。

学生：　　経済指標で言えば、失業率と経済成長率が、よく言われています。

失業率で言えば7%、成長率で言えば3%が、当選ラインと聞きますが。

ブズロー氏：そうなんだ。まず、雇用が最大のポイントだ。

猛烈な競争社会で生きるアメリカ人は先ず、自分の仕事がどうなるかを、考

えるからね。

日本は、終身雇用とか、かなり長期雇用制度がある。

しかし、アメリカは違う。

雇用契約期間は、1年とか3年だ。

景気の乱高下によって仕事が、つかめる、つかめないが、はっきりするんだ。

自分たちの仕事をつかむ環境をつくれないような指導者は、アメリカでは、失格ってことになるんだ。

学生： 2008年のリーマンショック後の、かなり不安定な経済を再生させる使命をおびて、オバマは大統領になった。

その後の経済政策は、成果があったとみていますか。

ブズロー氏： うーん。鋭い質問だね。

よくやったという面もある。何しろ、世界的な金融、製造の大企業が、倒産していったわけでしょう。あの時は。

オバマ政権が連鎖的に経済が悪化する流れにストップをかけたのは事実だ。

超大型の公共事業、つまり、古典的な財政政策を出動し、何とか総重要を支えた。特定の大企業に対しては、資金援助もして再建を助けた。

その辺は、「平時のアメリカの政治思想」では、ありえない面だね。

でも、経済が崩壊するくらいなら、やった方がよいということになった。

財政政策と同時に、金融政策も、どんどんやった。

QE なんかの、金融緩和だ。資金が、どんどん、流れるようにした。

学生： 結果として、現在のアメリカ経済は、どうなんですか？

アメリカ国民は、満足しているのですか？

その国民の意識が、大統領選挙につながっていくのですよね。

ブズロー氏： 一言でいうと、「何とか持ちこたえさせた」、「最悪の事態を回避させた」として、国民は安堵している。

しかし、十分ではない。

もう一つ認識しておく必要があることは、米国の大統領選挙は、現実として現職が有利ということだ。

戦後、現職大統領で、2期目の大統領選挙で敗退したのは、2人だけだ。

学生： なぜ、現職が有利なんですか？

ブズロー氏： アメリカ大統領は、絶大な権力を掌握しているでしょう。

あらゆる政策を、迅速に大胆に実行できるからね。

うまくやれば、見せ場もつくれるんだ。

学生： 私は、世界的な視点からしてオバマ大統領には2期8年やってほしいんです。

ブズロー氏： なかなか、プロフェッショナルなことを言うね。

どういう意味だい。

学生： 大学でいろいろ勉強してきて、アメリカは世界の柱だと分かったんです。

世界の安定は、アメリカにかかっている。

アメリカが不安定なら、世界が不安定になる。

アメリカが安定のイメージを出すには、大統領は2期8年やってほしいとい

うことです。

ブズロー氏：プロの国際政治学者みたいなことを言うね。

よく勉強しているね。

確かに、アメリカが不安定な時代は、世界は不安定だった。

1960年代・1970年代は、アメリカの政権で、8年もった政権は、一つもなかった。

ケネディ・ジョンソン・ニクソン・フォード・カーター。

皆、8年の政権ではない。

世界はベトナム戦争、石油ショックによる混乱の連続だった。

資本主義の危機みたいなことも、言われた。

あの時代を検証すると、確かに、「アメリカの不安定＝世界の不安定」みたいなシェーマが、理解できる。

学生：       ところで、ブズローさんはアリゾナ州出身ですが、アリゾナは共和党支持者が多いと、聞きますが。

ブズロー氏：そうなんだ。だいたい皆が思い浮かべるアメリカは、ニューヨークなんかの東海岸、サンフランシスコ・ロサンジェルスなんかの西海岸の、海の方でしょう。

両海岸の方は、大方、民主党支持なんだ。

しかし、アメリカの広大なエリアは内陸部で、そこでは共和党支持者も多い。

いわゆる、保守的なエリアだね。

学生：       どうも、そのアメリカの「保守」というのが、よくわからないのですが。そんなに、内陸部の保守は、海側のカルチャーや思想と、違うのですか？

ブズロー氏：かなり違うね。

保守といっても、具体的に言えば、経済的保守・宗教的保守・国際政治的保守なんかに、分けて考えた方がよい。

学生：       経済的保守とは、どういう意味ですか？

ブズロー氏：一言で言うと、「小さな政府」だ。

「経済・社会は、民間の自由競争に任せればよいし、そのやり方が、一番経済を成長させるし、発展させる」っていう考えだ。

政府・行政が税金をどんどんとってそれをばらまくのは、程度をこえると、悪質な「大きな政府」で、経済が非効率になるし、結果として、国をだめにするという考えだ。

経済的保守の人は、減税、行政の介入を最小限にすべきだと、主張する。オバマ政権の「国民皆保険制度」にも、反対しているよ。

学生：       小さな政府は、英語で、limited government ですね。

ブズロー氏：経済保守の思想の基盤には、アメリカ固有の自由の思想がある。

税金をとることは、「個人から自由にお金をつかってトライするのを奪うこと」を意味すると、考えるんだ。

課税・重税は、自由の侵害で、悪ということなんだ。

- 学生： 確かに、社会を安定させるために、税金が使われるのなら、結構だけど。  
全く非効率に無駄に税金が使われることには、怒りを覚えます。
- ブズロー氏： 宗教的保守は、福音派とかのグループの人達で、キリスト教の原理原則に忠実に生きる人たちだ。  
皆、宗教心は純粋で強いよ。  
同性婚・妊娠中絶なんかは、絶対に反対だ。  
過度な自由奔放な生き方も、許容されないかもしれないね。  
とにかくまじめで、伝統的な古き良きアメリカの生き方を、追求している。  
世界には、アメリカほどの宗教国家はないかもしれない。  
アメリカの基盤の一つは、宗教なんだ。
- 学生： 私もそれは、2回アメリカに行って、気が付きました。  
とにかく、アメリカには、教会が多い。  
多くの人が、教会に行っていました。祈っていました。
- ブズロー氏： 国際政治的保守というのは、「アメリカの世界でのプレゼンスを重視するグループ」と、「世界にはかかわらないで孤立するというグループ」がある。  
現在は前者が、国際政治的保守の主流になっていると思う。  
かつての、ヒトラー独裁政権、ソ連共産主義との壮絶な戦いの歴史から、アメリカは自国には、「世界をマネジメントして良い方向に導く使命」があると考えている人も多い。  
また、アメリカは元来、建国以来、自由主義・民主主義のリーダーで、それを世界に広めることが国家的使命と、考えている。  
それには、ただ言論で言っても、だめだと考えている。  
現実の国際政治は、壮絶な権力・陰謀政治、仁義なきパワーゲーム、パワーファイト、パワーウォーだ。  
だから、軍事力・諜報力を絶対にいつの時代も、強化・維持して行く必要がある。  
こんなふうを考えるのが、国際政治的保守だ。
- 学生： 国際政治的保守は、「力」を重視しますが、今後は、どこに対して、「力」を使うというか、向けるんですか？
- ブズロー氏： 良い質問だね。  
それについての議論はいろいろある。  
つまり、1991年にソ連が崩壊したことで、かつての、いわゆる社会体制を中心にした体制間の冷戦は終わった。  
それで、もう必要以上に、軍事力なんかの「力」も必要なくなるのでは、という考えもあった。  
しかし、現実の国際政治は、そうじゃなかった。  
いわゆる「文明間の衝突」や、「対テロ戦争」みたいなこと、また、アジアでのパワーバランスの大きな変化みたいな、グローバルな戦略課題が出てきたんだ。
- 学生： それで結局、アメリカのスタンスは、どうなるんですか？

ブズロー氏：いろいろ意見はあると思うが、世界は完全に安定しているわけではない以上、グローバルマネジメントのリーダーシップ、いわゆるグローバルリーダーシップを、アメリカが執る必要があると、考えている人も多い。

学生：確かに、これからも無数に課題はありますよね。  
核管理の問題、自由化・民主化だって確立していないエリアも多く残っている。世界的なテロの活動の動きもある。  
2008 年以降の世界同時不況みたいな連鎖的に世界経済が崩壊するといったケースもある。

ブズロー氏：そうなんだ、つまり、世界は、グローバル化して行くけど、それに伴って、どんどん、問題も出てくる。それに対する有効な対応、「グローバルマネジメント」みたいなコンセプトの活動が、大切になってくるんだ。

学生：「グローバルマネジメント」というと、2008 年の世界同時不況以降の、世界では、G20 なんかの対応、迅速に世界経済をどうするかって話しあって、世界同時に対応した流れをみても、必要だし力強いと感じました。  
その辺のリーダーシップはやはり、実際に「力」がある国家が、やるしかない。やはり、アメリカになりますね。

ブズロー氏：そうかもしれない。  
「グローバルマネジメント」の使命が、アメリカにはあると考えるべきかもしれない。

学生：「グローバルマネジメント」についてですが、他の国では、できないでしょうか？

ブズロー氏：皆は、どう思う？

学生：経済力で、アメリカに匹敵する国も出てくると予想されている。  
しかし、「グローバルマネジメント」になると、経済力があるだけじゃ、できない。

ブズロー氏：うーん、なかなか、専門的だね。  
どんなファクターが、必要になると思う。

学生：やはり、軍事力も外交の後ろ盾として必要でしょうし、それ以上に、世界の人に、影響を与える、メディアの力、ソフトパワーなんかも必要でしょう

ブズロー氏：その他はどうか。

学生：その他、例えば、インテリジェンスなんかも、卓越していないと。

ブズロー氏：そうだね、世界は、想像を絶する、暗闘があるからね。そんなパワーも必要になるね。ただ、忘れてはいけないことは、アメリカ一国では、マネジメントも、リーダーシップも執れないって言うことだ。世界の世論や動向や、細かいエリア的な対応・情報分析みたいなことがある。アメリカは、常に、真の「同盟国・友好国」を必要とするんだ。そんな、国家の間の関係も、結局は、人間と人間の関係がベースだ。このゼミでの取り組んでいるような、人間関係の構築は、本当に貴重だし、価値的だ。今後がんばってほしい。

## アメリカ人ITコンサルタント David Boudreau 氏



### 2. 2 ネパール人留学生ナミタ氏を招待

学生：今日は、よろしくお願いします。

ナミタ：こちらこそ。

学生：まず、ネパールという国について、説明をお願いします。

ナミタ：ネパールというと、山岳、ヒマヤラです。

6000メートル以上の山が、200以上はある、

ネパールは、大山岳国家です。

登山家には、世界で一番魅力的な国かもしれません。

学生：日本に来たきっかけは、なんですか？

ナミタ：水の勉強に来たんです。

学生：水ですか？

ナミタ：ネパールでは、水が、完全に安全に使用されるインフラがないんです。

日本なんかは、本当に見事に、水関係のインフラは完璧で、どこに行っても、安全に水が飲めるし、使える。

卓越したインフラです。

学生：なかなか、上下水道インフラの重要性なんかは、いつもは気がつかないけど、

日本人は、恵まれているんですね。

ナミタ：そう思いますよ。

国家にとって、先ずインフラの確立が、重要なんです。

上下水道・道路・鉄道・情報通信・港湾・エネルギーなんかのインフラは、国家発展の根本です。

それに、学校なんかの教育基盤も、最重要的なインフラでしょう。

一番重要な土台かもしれません。

学生： 「土台としての教育」という点については、考えさせられます。

近年、どんどん、ニートだ、パラサイトだとかいう若者が急増して、若者が、部分的に、劣化しているのではと思うのです。

学校、マスメディアも含めて、総合的な点で、現在の日本は、「教育の失敗」に直面した。それがここまで、大きく日本の国家にひびくのかと思っているんです。

国を崩壊させるには、教育を崩壊させる、人間を崩壊させる、劣化させる、特に、子供や若者なんかの世代から劣化させればよい、その国は確実に衰退し崩壊させることができるのではないかと、思います。

ところで、ネパールの言葉や文化について、教えてください。

ナミタ：ネパールの言語は、英語です。英国の植民地でしたから。

宗教は、ヒンズー教が約 80%です。

学生： それを聞くと、インドと似ている気もしますが。

ナミタ：そうなんです。ネパールとインドは、同じオリジンです。

学生： 気候はどうですか？

ナミタ：カトマンズの冬は、寒いですが、意外に他の季節は、暖かいんです。

インド洋からの風のおかげなんです。

学生：食べ物、どうですか？

ナミタ：カレーなんかを、食べますね。

種類は、多いです。

学生： 家族なんかの制度はどうなっていますか？

ナミタ：ネパールは、大家族制ですね。

多人数の家族で、皆、住んでいます。

学生： 日本なんかは、どんどん単身世帯が増えて、「家族をもたないライフスタイル」を選択する人も増えている。

ナミタ：そうですね。

ネパールでは、一番大切なものは、何ですかという問への答えとして、家族となりますね。

学生： 今の日本だと何になりますかね。

もちろん、家族・家庭とか、答える人も多いでしょうけど。

近年は、かなりライフスタイルが、変化、多様化しています。

しかし元来、特定のライフスタイルが、あったわけでもないし、かなり統治する側が意識して、統治するためにつくった制度もある。

ナミタ：人間は、一人では、生きられない。

学生：確かに、一人で生きられないと実感する人は、家族をつくるんでしょうし、一人で生きられるみたいな人は、家族をつくらないんでしょう。

これからは、ライフスタイルは、もっともっと多様化すると思います。

実際、これからは、「組織ももたない。家族ももたない。妻ももたない。恋人ももたない。親友ももたないみたいな生き方」をする人が、出てくるかもしれませんね。ストレスもなく、完全自由でよいかもしれませんよ。(大笑)

ナミタ：ところで、ネパールでは「ストレス」という言葉が、ないんです。

学生：それは、うらやましい。

日本だと、ストレスという言葉が、充滿しています。

実際、ストレスは、身体の免疫を落とす一番の、病気の原因だとも言われています。

日本みたいに、高度に発展した国でも、ストレスがすごい。

これじゃ、幸福とは言えない。

ストレスの原因は、やはり、ほしいものが手に入らないとか、気候が合わないとか、騒音だとかもあるんでしょうけど、それより 97%以上、人間関係がストレスになると言う人もいます。

実際、「ネガティブな人間関係」は、最大のストレス源になります。

意見相違や感じ方の相違で、「ネガティブな人間関係」が、発生する。

最初は、肯定的プラスの人間関係でも、やがてそれは、密着性が強くなるほど、「ネガティブな人間関係」に変化して行く。

大半の人間関係は、結局、特に、その密着性が強くなる場合、「ネガティブな人間関係」、つまり、強烈なストレス源になる。

だから理論的には、「ネガティブな人間関係」を回避するために人間関係は最小限にするのが賢明と考える人が、日本では増えているようです。

ナミタ：ネパールでは、不思議に、人間関係が「ネガティブな人間関係」にならない。

おそらく、そのようになる雰囲気、社会全体に、固定されているのかもしれないし、宗教的基盤のせいかもしれません。

学生：そうなのかもしれませんね。

人間関係についていえば、とりあえず、若い時代は、無理をしてでも人間に強くなるために、人間関係の中に、飛び込む必要があります。

若い頃から、一人でいるのは、よくないと思います。

若い時代は、ストレスはあるが、徹底してあらゆるタイプの人間と、それこそ、膝詰めで、対話・交流することが、大切ですね。

それが、自分の人間力の強化になる。

その点、実際、アメリカなんかの若者は、すごい

あんな個人主義の国なのに、高校生や、大学生の時は、絶対に個室じゃない。

「ルームメートと共同生活しろ」みたいなカルチャー、また、やたら「ホーム・パーティーで人と交流する」ようなカルチャーがある。

あの辺が、アメリカ人が基本的には、個を重視するが、人間に対応する能力



ナミタ：若い皆さんは、これからも、どんどん、それこそ世界の人たちと、対話・交流して行って下さい。

[illegible]

学生：今日は、世界を舞台に活躍される超多忙な中、お越しいただき本当にありがとうございます。

羽賀：こちらこそ、よろしく。「今度いつ会えるか分からない、一回一回の出会い、対話・交流が、真剣勝負だし重要だ」と思うことだ。

学生：アフガニスタンには、米軍の戦闘直後、大変な危険な状況の中、入られたと聞いています。

特殊な連絡装置を持って行った。

羽賀：地雷もたくさん埋まっている。地雷を踏んで歩けなくなって、物乞いするような子供もたくさんいた。

女性は、人間ではなく、もののように考えられている面があった。

まだアフガニスタンには、自由もない、人権もない、民主主義もない、安定もない、福祉もない。

＜実際に羽賀先生の持参された多数のアフガニスタンの写真を紹介されて、ゼミ生全員は驚愕した様子だった＞

羽賀：大変な状況だということが分かるでしょう。

混乱。治安の悪化。

それでも、どんな状況でも、人間は、生きていかなければならない。

必死だ。

一番感動したのは、教育だ。

屋根も机も、満足な文房具もなにもない。

でも、小さい子供、若者は、学ぼうとしている。実際、学んでいる。

それは、生きるためなんだ。生きていくために、学ぶことが必要だと、理屈なしで、実感しているんだ。

必死に教えようとする教育者、必死に教わり這い上がろうとしている生徒。

そこには、教える側の情熱と教わる側の情熱があった。

これが、教育の原点じゃないかな。

学生：日本で学んでいる者として、反省しなければいけないと、感じました。

日本の若者には、教育を受けられることが全く当たり前になって、その価値の偉大さを忘れている人も多い。

簡単に学校に来なくなったり、学ぶのをやめたりする人が、あまりに多い。

学校で力をつけることを忘れ、力がつかず、結局、気がついてみたら、働くことができなくなってしまう若者も多い。

これでは、学校にいけない世界の子供、若者たちに申しわけない。

体力もある若い人が、必死にならない、学ばないというのは、豊かさに敗れた姿ではないでしょうか。

羽賀：そうなんだ。日本の今の現状は、根本は教育に原因がある。

だから、小学校から教育を再建しないといけないんだ。

ところで、日本にはこれから、地域も、外国からの若者が増えると思うよ。

地域の企業なんかも、必死だからね。やる気のある、戦力になる外国の若者の労働者が増える時代になる。

学生：その流れには個人的には、賛成なんです。日本の人口ピラミッドの変化は、致命的です。

どんどん、逆三角形に変化してきている。年金・医療などの社会保険を支える側が縮小しすぎてきている。もう支えられなくなるのではと、心配です。

高齢者への年金支給開始年齢を後ろに伸ばすとか、小手先のことをやっている。

少子化対策も、効果がない。

だから、世界から人をどんどん招くしかないのではと、思うのです。

グローバル化時代だから、自然の流れではないかと、思うのです。

羽賀：確かに。グローバル化は今後も、どんどん高度化する。

「国際化」と「グローバル化」は質的に違うことを、知ってほしい。

「国際化」とは国家と国家の関係が中心だ。グローバル化は、国家同士の関係じゃなくて個人と個人の関係が中心になる。

学生：個人が重要なんですね。

羽賀：そうなんだ。

個人一人一人が、勉強して、成長して、力をつけて行くことが重要だ。

若い皆さんには、徹底して、勉強してほしい。

私は一日3冊の本を、読破すると決めている。

6か国語は、あやつれる。

学生：羽賀先生の学ぶ情熱には、圧倒されます。

人間は、生涯勉強なんですね。

羽賀：そうだ。知力の基盤がないと、世界では通用しない。

例えば、世界のあらゆるエリアの歴史や文化も知っていないといけない。

文化とは、「優先するものが異なる」ということなんだ。

自国のやり方、文化を押し付けるようなことから、摩擦が起きるんだ。

学生：ある意味で、アメリカも、よくその辺を理解する必要があるのかもしれませんが。ベトナム戦争での撤退なんかも、アジアの人たちの文化を理解できなかった面もあった。以後、アメリカでは、多文化学習や、文化人類学みたいな分野も強化しているようですが。でもまだ十分ではない。もっともっと、世界の文化を理解して行く必要があります。

世界の人間の中に入っていくときに、何が一番大切ですか？

羽賀：先ず「あいさつ」です。

相手の国の言葉で、「あいさつ」する。

「自分は敵ではない」と思ってもらわないといけない。

それから、「おもしろい人間だ。自分たちには知らないことをこの人は知っている」と実感させないといけない。

学生：世界を舞台に活躍される中からの、人間学だと思いました。

羽賀：それから、人間の話をよく聞くことだ。

聞くとは、「よく聞いて質問、反論をすること」なんだ。

よい質問や反論ができないようでは、聞いてないことになる。

信用されないんだ。

日本人は、黙りすぎな面がある。

学生：今後の、グローバル化について質問させて下さい。世界には、自由もない、人権もない、民主主義もない、福祉もないような、人間を不幸にしている国や、地域はたくさんあります。アメリカは、自由と民主主義を広める国家として、近年すさまじい勢いで、世界の自由化・民主化を推進してきています。アメリカのそのスタンスは、今後続くような気がします、どのように思われますか。

羽賀：微妙だ。アメリカのスタンスは、確かにそうだが、現実には、自由化・民主化を強硬に実現されたエリアで、逆に、そこの人の感情を、敵にしている面もある。

学生：やり方が、強硬ということですか。

羽賀：軍事力で、独裁政権なんかを打倒はするが、その過程で何の関係もない人間が死

ぬ、負傷するわけでしょう。その関係者はアメリカを良い国だなんて、思わない面もあるのは、当然です。

学生：現場に立ち、現場の人と生活し活動する羽賀先生だから、言える言葉だと思いました。今後も、グローバル化を多角的に、勉強して行きたいと思います。

今後とも、ご指導をよろしくお願いします。

#### —長岡市国際交流センター長 羽賀友信氏—



#### 2. 4 ロシア人留学生エリーナ氏を招待

学生：今日は、よくお越しくできました。

ロシアは、日本人にとって、地理的に近いのに、まだまだ知られていない面があります。ロシアの話を、たくさん聞かせてください。

エリーナ：こちらこそ、よろしくお願いします。

学生：先ず、ロシアの基本情報を教えてください。

人口は、どれくらいですか。

エリーナ：1億4000万人ほどです。

学生：日本より、やや多いほどなんですね。

エリーナ：あれだけの広い国土からすると、少ない方かもしれませんね。

学生：経済の主力は、なんですか？

エリーナ：第一に、ロシアは、伝統的に、資源大国です。石油・ガス・ダイヤモンド・金など、あらゆる地下資源が、豊富です。

今は、製造業も盛んになっています。

学生： 文化的には、どうですか。

エリーナ：総じていえば、ロシアは、西ヨーロッパの影響が強いと思います。

もちろん、アジアにも国土がかかっていますから、アジア的なものもあります。

学生： 食べ物は、どうですか？

エリーナ：スープが、特徴的でおいしいのではと、思います。

学生： やはり寒いところだからでしょうか。

ボルシチは、日本でもよく知られています。

それと、パンのピロシキも、有名ですよ。

エリーナ：人形の文化もあって、マトリョーシカは、世界的に有名です。

学生： 日本との関係については、どうですか？

エリーナ：近年、ハバロフスクなんかには、日本からの人が増えました。

しかし、モスクワですら、日本語を教える所が、まだ少ないのが現状です。

日本との関係がもっと強くなったら良いと、思います。

学生： ロシアから学ぶことの最大のものは、やはり大文学じゃないでしょうか。

トルストイ、ドストエフスキーなんかの、そうそうたる、大文学者がいる。

掘って掘り下げているテーマや内容なんかは、世界的というか、極致ですよ  
ね。

人生や生き方を、学びます。

ロシアほど苦勞している国はない。そこに生きてきた人間のドラマから生み  
出されていったからこそ、あれだけの大文学が生まれたのではないでしょ  
うか。

ロシアは、1800 年代一番遅れたヨーロッパとして、西ヨーロッパに追いつく  
ことに、必死だった。基本的に、極寒の地です。寒さに耐えて、生きて行く  
必要がある。なんとか資本主義を発達させて行く中で、仕方ない歪みが生じ、  
社会主義革命を、起こすようになって行く。次は、ドイツのヒトラーとの壮  
絶な戦いです。ロシアは非常に多い戦死者を出した。その後も、資本主義対  
共産主義の冷戦の先頭に立たざるをえなくなった。国富のかかなりの部分を、  
軍事に使用した。

1980 年代には、アメリカのレーガン政権の挑戦を受け、1991 年に社会主義共  
和国連邦としてのソ連が崩壊した。国家が崩壊したんだから、市民の生活は  
大混乱で、苦勞したことでしょう。まさに、苦勞の連続の歴史です。

エリーナ：ソ連やロシアの歴史、事情について、よく勉強していることに、驚きました。

学生： 国家には全て、固有の歴史的背景があり、国家指導者の意思決定も、それら  
の影響を受けます。

あれだけの、軍事侵略を経験すれば、安全保障に強かになるに決まっていま  
す。

その背景から、大陸間弾道ミサイル・攻撃型潜水艦などの戦略兵器をはじめ、  
多様な軍事力をロシアは保持しています。

アメリカは、ソ連崩壊後のロシアを、自由主義・資本主義国で、イデオロギー的対立はなくなったが、権力国際政治でのライバル国の一つと、認識していると思います。世界の安定、平和的なグローバル化のランディングのためには、とにかく、アメリカ・ロシア・中国なんかの「国際政治大国」が、うまくバランスをとって、進めてほしいと思うのです。世界大戦は、イデオロギー対立で起きたのではなく、国際的な権力政治の、調整ミスが拡大して、発生したのだと思います。国家指導者や、トップスタッフといったグループも、その判断で当然ミスをする場合がある。何よりも、大局を見れない判断が、怖い。長い歴史的スパン、世界全体という、大局からの、判断が重要です。

エリーナ：私も、ロシアの一員として、その辺のことを今後も、皆さんと一緒に勉強して行きたいと思います。

#### —ロシア人留学生エリーナ氏—



### 3. Visit

#### 3. 1 「長岡まつり前夜祭大民謡流し」への参加

8月長岡まつり前夜祭の「大民謡流し」に、長岡に住む世界各国の外国籍市民の方と一緒に参加した。

練習は1か月程前から行い、その過程でさまざまな外国籍市民の方と交流することができた。外国籍市民の方は、長岡の民謡流しに参加するのが初めてという方が多かった。

よって、3種類の振り付けを覚えるのに苦労していた。しかし、皆、一生懸命な様子なのでとても感動した。

本番では、世界から長岡にやってきた方、世界からの子供・若者・壮年・お年寄りが、参加し踊りを披露するかたちとなった。皆で、最後まで成し遂げて行く中で、心底、「国籍や、民族の違いなんか全く関係ない、皆、同じ人間だという、意識、気持ち」が、わいてきた。その体験、思いは、自分の心の中にできた偉大な財産で、これが「グローバルマインド」なのかと思つた。

—長岡祭り前夜祭「大民謡流し」に外国籍市民の方と参加—

## 長岡まつり前夜祭 大民謡流しの様子



—長岡祭り前夜祭「大民謡流し」に外国籍市民の方と参加—



### 3. 2 「世界の仲間と運動会」への参加

10月長岡市国際交流センター「地球広場」主催の「世界の仲間と運動会」に参加した。

最初、国籍・文化・言語も違うさまざまな外国人の方が、片言・覚えてたの日本語を使って、あいさつした。皆、自分から、積極的に交流して行こうという姿勢をもっていた。

競技の始まる前に、皆で仲良く準備体操を行った。それからオリエンテーションが行われた。

不思議だったが、開始して10分ほどで、民族・国籍なんかの壁や隔たりは、無く感じなくなった。それからまた整列させられ、種目の説明を聞いた。

「赤・青、両チームとも半分に分かれて2人で協力しながら下敷きの上に乗せたボールを運ぶと言う内容の競技」・「借り物競争」・「大玉送り」・「大縄跳び」など、さまざまな競技を行った。

大玉送りは、三人で50m離れた所まで協力しながら大玉を持って行くという競技で、実際にやってみると意外と難しく息が合っていないと駄目だと痛感した。

大縄跳びは、各チーム向かい合わせになり背の順で背の高い人から飛ぶと言う形式で行った。先に子供、次に大人の順で行った。

基本的に、どの競技も外国籍市民の方にとっては、珍しいものであったようで、競技自体に、非常に興味をもっていた。

「自分の国には、このような競技はないよ！」という驚嘆の声をよく聞いた。このことから、あらためて、文化というものは、国・地域によって異なるということを、実感した。



「自分たちにとっては、当たり前と感じている文化も、世界的視点からすれば、ほんの一部のものでしかない。安易に絶対視すべきものでもない」ということを、理解した。

「世界的視野から考える。超歴史的視点から考える」ことの重要性を、理解した。

#### —「世界の仲間と運動会」に集った外国籍市民の方と競技に参加—



### 3.3 「お正月餅つき」への参加

新年の1月に、外国籍市民の方と、餅つきを行った。

多くの外国籍市民の方は、臼と杵を使った日本独特の餅つき自体を、見たことがなかったようで、驚いていた。

外国籍市民の方は、重い杵をおそろおそろもって、臼にあったもちを、つき始めました。

だんだん慣れてくると、皆が、「よいしょ！よいしょ！」と、声を出し、杵をもつ人も勢いが増してきた。

そうしている間、自分もやってみたくなった人が増えてきて、どんどん交替して、多くの外国籍市民の方が、杵で餅をついて行った。

皆で、餅を、食べる中で、皆、笑顔になり、楽しくなった。

—「お正月餅つき」に参加—

## お正月餅つき



### 4. Donate

10月末の長岡大学の悠久祭において、世界の子供たちを応援する目的で、ハイグレードバーというお店を出店した。ハイグレードバーではガリアーノやマティーニ、ワイルドターキーなど世界の有名なお酒を出し、少しでもグローバルな要素を皆に伝えたいと思った。

ハイグレードバーで得た収益金は、ユニセフに全額寄附することにした。ホテルニューオータニ長岡がユニセフとの仲介を行っているので、そこで寄附金を贈呈した。

—ハイグレードバーで世界のお酒を紹介—



—ユニセフの募金箱に寄附—



## おわりに

グラスルーツグローバリゼーションの活動を通じて、私達は多くのことを学んだ。グローバリゼーションは、世界経済全体の拡大など、多大な恩恵をもたらす一方で、文明間、各国間、各民族間等での相互理解ないし総合調整の欠如や不十分さからの摩擦、紛争、動乱、戦争など、深刻な問題も惹起させている。

グローバリゼーションを、平和的にランディングさせ、世界の平和的な統合を形成するには、世界の各地で皆が出会い、語り合い、友情を築いていくことが大切だと考え、世界各地の草の根・地域で、世界の人々が出会い、語り合い、友情を築いていくことを、「グラスルーツグローバリゼーション」と定義した。

実際、「グラスルーツグローバリゼーション」、草の根の国際交流は、あらゆる地域で、進んでいる。各地域が、世界の都市と姉妹都市等を結び、人間と人間の交流を活発に行っている。

「ただ知らないことから不安や敵愾心を起こし、摩擦・紛争に至るようなこと」は、なくしていかなければならない。

私たちは、「グラスルーツグローバリゼーション」の具体的な活動として、「Study・Invite・Visit・Donate」の方法論を確立し、自分たちなりに実践してきた。

今年の Study の活動では、大いにディスカッションすることで、自分たちの考えを洗練化することができた。

また、Invite・Visit の活動の中で、外国人の方と直接対話し交流していった経験は大きかった。

Donate では、秋の悠久祭に、ハイグレードバーを出店し、ささやかながら、世界の子供たちを支援する活動を行った。

いまだ世界人口の約 70% は、年収 30 万円以下で生活している。学校教育を受けることができない子供や、ただ生存するだけに毎日必死にならざるをえない環境にいる人たちが、あまりに多いのが、世界の現実である。

人間は、自分の成長や成功・勝利を目指して上昇する中で、自分が大きくなる面もあるが、心から人に尽くす利他・慈悲の行動・心に、人間としての輝きがあることも体得した。

総じて、「グラスルーツグローバリゼーション」の活動を通じて、私達は自然に、「国籍、民族などが違って、皆、友情と幸せを求める同じ人間である」という「グローバルマインド」を体得した。

私たちが実践しているような人間性豊かな交流が、世界の各地で拡大して行くことこそが、グローバリゼーションを平和的にランディングさせ行く底流となることを確信している。最後に私達は、次のメッセージを記しておきたい。

人類の教師と呼ばれたロシアの作家トルストイは、叫んだ。  
「世界の平和を創造せんとすれば、先ず汝自身の心に平和の砦を築け」と。

## 謝辞

私達の「グラスルーツグローバルイゼーション」の活動に、貴重なお時間を割いてご協力して下さった方に感謝申し上げたい。

Invite の活動においては、長岡市国際交流センター長の羽賀友信氏、ネパール人留学生ナミタ氏、ロシア人留学生エリーナ氏にお世話になった。

Visit の活動では、長岡まつり前夜祭大民謡流し、世界の仲間と運動会に参加したが、そこでは長岡市国際交流センターのスタッフの方から、何度も激励をいただいた。

また、私たちの取り組みのアドバイザーとなって頂いた、アメリカ人 IT コンサルタントのデビッド＝ブズロー氏、CLN 代表の大出恭子氏は、貴重なご指導をして下さった。

お世話になった全ての方に心より感謝申し上げたいと思います。

